

水たけ

通巻 第37号



御屋根葺替

ご挨拶

宮司 竹間 宗麿

境内久留米つつじ原木群（久留米市指定文化財）の花は咲き誇り、山内の緑はいよいよ深まり、今年も「川渡祭」、高良の大神様の御神威により、大難を小難に、災いを福に転ずる神事の季を迎えました。

厄年・還暦の方を始め、多くの皆様のご参拝をお待ち申し上げます。

皆様のご奉賛の真心を以ちまして、平成の大修理事業の諸工事も、計画通りに進められております。

「かたり継ぐ かたち伝える」を期した、四十年ぶりの御屋根葺替えを始めとした国庫補助事業は、忙しき現代に、伝統技術を受け継いだ職人の技により、御社殿の形は変えず、しかし麗しく装い新たに生まれ変わろうとしています。

斎館授与所新築工事は、二月十五日に上棟祭を斎行し、六月末の竣工を予定しております。高良会館一階前のトイレに關しましては、川渡祭を目的として五月末に一足先に完成致しました。今後、心地よくご利用いただければ幸いです。ご心願を申し上げます。

本年十月四日に本殿遷座祭を控え、此の度の「平成の大修理事業」も大詰めを迎えております。更めて皆様方のご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



川渡祭にしよう

川渡祭は六月一日・二日の両日行われます。川渡祭にお参りすると、高良の大神様のお恵み、お守りによって様々な厄難から逃れ、運を開くことが出来る、昔より伝えられています。

川渡祭とは

「川渡祭」の語源は「川浸り（かわびたり）」とも言われ、筑紫次郎と称される筑後川の度重なる氾濫を鎮めてほしいという「水難除け」の願いととも、この日にあらゆる厄除けを高良の神様にお願いをしていたことが始まりであると言われています。



茅の輪神事（夏越祓）

やがて時代の流れと共に、この祭りが「川浸りの朔日」となり、旧暦十二月一日に水神を祀り、厄除けを願う神事と変化してきました。

その後、夏祭りの信仰風習と共に、明治時代後期に現在の六月一日に川渡祭を行うようになりました。一方、旧来の川渡祭の日であった、十二月一日には「鎮火祭」を斎行し火の営みに対する感謝と安全をお祈りしています。

六月の茅の輪神事は「夏越（なごし）祓」とも言い、「和（な）ごし」に通じ、人の心を和やかにすると伝えられています。茅の輪は初めの頃は、各自が腰に付ける程小さなもので、今でも「茅の輪守」としてお頒ちしておりますが、時代を経るにつれて大きな輪をくぐり心身の祓いを行うようになり、今日の神事となっています。

川渡祭一日神事

六月一日午前五時より、朝妻の味水御井神社（うましみずみいじんじや）に赤いへこ・ゆもじをつけた老若男女が大勢集い、朝妻の清水にて禊を行います。

今では「川渡祭」を「へこかき祭り」とも称します。これは厄除けの赤い「へこ（禪）」を「かく（着ける）」からきており、裸詣りの数え七歳の男児が「へこかき」女児が「ゆもじ（腰巻き）」なる人生儀礼の一つとして厄を祓い、無事成長を祈って参詣をする祭事であることから「へこかき祭り」とも称し、筑後地方に夏を告げる祭りとなっています。



へこかき姿での参詣

朝妻の清水にて禊を行った裸参り一同は、清水で御潮井を取り、掛け声勇ましく山を駆け登り、大茅の輪前に参集します。

茅の輪くぐり神事 和歌

① 水無月の夏越の祓いする人は

千歳の命延ぶと言うなり

② 思うこと皆尽きねとて麻の葉を

切りに切りても祓いつるかな

③ 蘇民将来 蘇民将来 蘇民将来

歌を唱え、宮司を先頭に神職、赤へこ・ゆもじ姿の禊人、そして参拝者と続いて茅の輪をくぐり、心身を清め、社殿へ進み、更めて災厄消除を祈念します。



川渡祭 神賑「さつき盆栽展」（さつき盆栽趣味の会）5月19～21日

茅の輪くぐり神事後、境内では「福がゆ」という山菜の入ったおかゆが振舞われます。



この日は早朝より夕刻まで、厄年の抜い、または還暦などの年祝い、あるいは家内安全無事息災の御祈願を受ける方が引きも切らず神社に訪れ、社頭は賑わい、各々茅の輪守を受け家路に着きます。

明けて二日祭と続き、六月中旬は厄除け祈願のお参りが続きます。両日ともに午前七時・十一時・十四時に神職の先導のもと茅の輪くぐり神事が行われます。

茅の輪は一日の午前七時のくぐり初めより終日、ご自由にめぐることが出来ます。

※本年は、本殿工事に伴ない、茅の輪くぐり神事を仮殿前にて行ないます。

川渡祭特別祈願

川渡祭では還暦・厄年・数え七つのお子様をはじめ、家内安全・諸願成就の御祈願を受け付けております。

赤い肌物を身に付けて御祈願を御受けいただきますと、御神威弥増すと伝えられ、特別祈願札を授与致します。

川渡祭限定授与品

六月中、川渡祭限定で、茅の輪守と、へこかき守を授与致しております。

茅の輪守は、茅（ちがや）を刈り取り、天日干しをした上で縄縷いし、輪に結び、赤紙垂を垂らします。そのすべてを神職・巫女の手で奉製致します。

茅の輪守

へこかき守



夏越大祓式

〔六月三十日午後二時齋行〕

大祓という神事は、私共が日々の生活において知らず識らずのうちに触れた罪や穢れを抜い清めるものです。

大祓について

日本では古くから浄明正直を生活の基本として、代々その伝統が受け継がれてきました。その中で「抜い」が最も大事な行事とされています。

大祓は古くは宮中で、中世以降は各神社でも年中行事として行なわれるようになり、現在では多くの神社の恒例式となっています。

大祓は年に二度行われ、六月の大祓を夏越（なごし）の大祓と呼びます。罪けがれを移した「人形（形代）」を神事によってお抜いし、我が身の代わりにお清め致します。

神社の境内に於いて抜い清めて、清々しい生命力を復活させるこの神事は、誠に意義深いものです。ご家族そろって、大祓をお受けになり、暑い夏を無病息災に乗り越えましょう。

大祓はどなたでも参列できます。

○初穂料

一 家族 一、〇〇〇円以上

※三、〇〇〇円以上のお納めで「大祓茅の輪守」を授与致します。



祓物（はらえつもの）を八針に取り裂く



祭事のご案内（七月～十月）

◆奉納書道展 七月十七日～

筑後一円から例年千件近い作品の応募があります。上位入賞作品を高良大社境内にて、その後ゆめタウン久留米にて展示いたします。

◆愛宕神社夏祭

七月二十三日

火難除けの神として篤く信仰され、氏子崇敬者参列のもと、地域の安全・火伏せを祈念いたします。

◆献灯祭 八月一日

一三一段の石段（本坂）の両側の奉納灯籠に火を灯します。家内安全や事業繁栄を祈念いたします。
点灯期間は八月末まで（午後七時～十一時）

◆味水御井神社夏祭

八月七日

味水御井神社は水の神として信仰され、川渡祭では境内の泉

にて禊が行われています。夏祭では氏子崇敬者参列の上、地域の安全を祈念いたします。

◆大学稻荷神社夏祭

九月六日

多くの崇敬者参列のもと、五穀豊穡・事業繁栄・家内安全を祈念いたします。

◆剣道大会 九月中旬

久留米市内の小・中・高校より剣士が集まり、熱戦を繰り広げます。

◆市恵比須社例祭

九月二十五日

石造りの夫婦恵比須をお祀りする市恵比須社の例祭では、参列者の商売繁盛・家内安全・夫婦円満を祈願いたします。

◆本殿遷座祭 十月四日

三年度に亘り行われている御本殿の御屋根替之工事を修し、平成二十七年十月に仮殿遷座祭

にてお遷り戴いた大神様に麗しく調います御本殿にお還り戴くお祭りです。

お祭りでは浄間の中、大神様に御本殿へお還り戴く「遷御の儀」が執り行われます。

◆奉幣祭 十月五日

宮中畏きあたりより御幣物を賜り、神前へお進め申し上げます。御遷座をお祝いする祭儀です。

◆例大祭 十月九日

高良大社の恒例祭事の中で最も重要なお祭りで「高良山くんち」と言われ親しまれています。神賑として獅子舞、風流などの伝統芸能や高良山十景舞などが奉納されます。

◆崇敬会大祭 十月十日

高良大社崇敬会会員が日々の神恩に感謝し、家内安全や商売繁盛などを祈念致します。表千家不白流による献茶式が奉納されます。

◆観月祭 十月十一日

「月神高良の神」に因み、月を愛でるお祭りとして始まりました。箏曲や太鼓、舞などが社殿及び境内特設舞台にて奉納され、秋の夜長を彩ります。

◆弓道大会 十月上旬

境内特設会場にて、筑後内外より多くの方が弓の技を競います。また、古式ゆかしい「百々手式」の奉納があります。

◆稻荷教秋季大祭

十月十六日

大学稻荷神社稻荷教会員、崇敬者が日々の神恩に感謝し、家内安全・商売繁盛等を祈念いたします。

◆山川招魂社秋季大祭

十月二十日

山川招魂社は、郷土出身の英霊をお祀りする神社です。現代日本の礎を築き、命を捧げた郷土出身の英霊に対し、感謝の祈りを捧げ、御霊を鎮め、お慰め申し上げます。



祭事のご報告 (二月～四月)

●歳旦祭・初詣 正月

午前零時に新年を告げる太鼓が鳴り響き、多くの参拝者が神前に詰めかけました。本年は、御仮殿での二回目の正月でしたが、新年の幸せを祈る多くの参拝者で賑わいました。



元朝 高良山獅子伝統の「歯打ち」

●玉替祭 一月十五日

御祭神の御神徳の表れといわれる木製の「宝珠みくじ」の授与。各地の崇敬者の篤志をいただき、多くの参拝者で賑わいました。

●鏡開祭 一月二十一日

正月神前に供えた鏡餅を開き、ぜんざいとして参拝者にふるまいました。

●子の日の松神事 二月五日

市内上津町の本山の松苗を、同地区の大人、子供達が古式ゆかしい装束姿にて運び、境内に無事奉納植樹されました。



子の日松神事奉仕

●紀元祭 二月十一日

建国を寿ぐ祝詞を奏上後、巫女による「浦安の舞」が奉奏され皇室国家の弥栄と国民崇敬者の安泰を祈りました。

●大学稻荷神社初午祭 二月十二日

今年一年の運勢を表す粥占の結果報告を求め多くの参列者で賑わいました。粥占いの結果は、災害に気をつけよとの事。



大学稻荷神社

●斎館・授与所上棟祭 二月十五日

斎館・授与所の上棟祭が、斎行されました。当日は、天気も良く晴れやかな祭典となりました。参拝者の方々にもお祝いの紅白餅をお配りいたしました。



棟上げ

●祈年祭 二月十七日

古代より農耕と共に歩んできた日本人にとって五穀豊穡を祈る重要なお祭りです。農業はもとより、諸産業の生成発展をも併せ、参列者は実り多き年となるよう祈りました。

●愛宕神社春祭 四月二日

神前の桜が開き、好天に恵まれ多くの参拝者で賑わいました。

●大学稻荷神社稻荷教春季大祭 四月六日

境内の桜が満開の中、厳粛に斎行されました。

●琴平神社春季大祭 四月十日

高良山中腹の吉見嶽は、豊臣秀吉が陣を構えた戦国時代の要所です。本年は、雨の中の祭典となりましたが、桜舞う中、直会では参列者が楽しい一時を過ごしました。

●昭和祭 四月二十九日

昭和天皇の御聖徳を仰ぎ、国の繁栄を祈念いたしました。併せて江戸千家久留米不白会による献茶式が斎行され、境内にて、参拝者に薄茶の接待が行われました。



工事中の社殿・久留米つつじ原木軒

●山川招魂社春季大祭 四月三十日

高良山の麓、茶臼山の山川招魂社にて春季大祭が斎行されました。参列者各々が英霊に対し感謝の誠を捧げました。

兼務社紹介 栗林

坂本神社

高良山の信仰(十一) いとびらわら

◆御祭神

櫛岩窓神くしいわまどのかみ豊岩窓神とよいわまどのかみ

◆祭日 七月撰日



坂本神社は現在山川町本村区の高良御子神社(王子宮)の境内、丁度王子宮の右隣に鎮座されています。元は山川町栗林の阿志岐坂に至る古道の東西二箇所祀られ、東坂本社、西坂本社と称されました。その由緒は詳らかではありませんが、高良大社所蔵嘉暦三年(一三二八)の文書に「両坂本云々」とあるのが相当すると考えられ、明治八年(一八七五)の神社調帳には

王子宮の西三町栗林に東坂本社は瓦葺きの本殿と拝殿があり祭神は櫛岩窓命。西四町栗林に東坂本社があり瓦葺きの本殿のみで祭神は豊岩窓命とあり、明治四十三年に九月二十六日字栗林より合併とあり、このときに王子宮境内へ遷座合祀されたと思われまふ。現在の社殿は一つですが、社殿内には二座の御神座があり東西の坂本神社が鎮まります。祭神は天太玉命の御子神で御門を守る神であり、即ち高良山参道入口の守り神ということになります。宝永二年(一七〇五)『高良山略記』には「当社ノ往還、古ハ朝妻ヨリ今ノ阿志岐村の栗林ト云処ニ通ル故ニ、爰ニ坂本ノ社アリ云々」とあるのは両坂本社の存在は高良山にとって北側の登山路が重視されたことを物語るものといえます。かつては高良大社本坂下両脇にも御分霊が祀られていましたが現在は本社の御客座に祀られています。

祭日は七月で栗林自治会の運営により行われます。辻々に立てる御幣を沢山奉製し神前にて祈禱し、祭典後には町内各所に立て暑い夏の無事息災が祈られます。

高良山の西方「吉見岳」は水繩連山の最西端にして春は桜の名所として、豊臣秀吉を始め各武将が陣を置いた所としても知られています。その頂上に琴平神社が鎮座しています。

琴平神社の本社は香川県仲多度郡琴平町の像頭山に鎮座し、古くから「讃岐のこんびらさん」として、長い石段や森の石松が清水次郎長親分の代参をした事でも有名な庶民の信仰も篤いお社です。海の守護神でありながら海と遠い山間部でもお祀りされ信仰されてきました。こんびらさんは修験とも結びつき、お使いは天狗さんであり、悪魔祓いの霊験もあります。また蟹がお使いともいわれます。こんびら信仰は印度のガンジス川のワニを神格化し薬師十二神将の筆頭「宮毘羅」が「くんびら」「こんびら」「こんびら」となったとも云われ海上安全の御利益で漁師の方々から殊に信仰されています。

「金毘羅大権現」として神仏習合の濃いお宮でしたが、明治に分離し神社となり御祭神も「大物主神・崇徳天皇」の純然たる神道の神となりました。

さて当社の琴平神社は安永三年(一七七四)三月十日に勧請

され、文政五年(一八二二)に石祠を高良山五十六世座主大僧都亮忠が大願主となり山内の僧侶を始め地域の人々の寄進により建立されたのが現在残る本殿になります。翌文政六年には京都の大仏師吉泉功之進謹刻の大権現の御尊像を末崎多蔵正親、京都伊勢屋三郎兵衛、大阪辰己屋加右衛門の寄進により亮忠僧正大願主により像立奉安し、また同年には拝殿を建立しました。その五年後の秋に台風により拝殿倒壊し再建を試みるも、直ぐにはいかず資金調達が困難とみえて拝殿再建なるのは天保四年の冬となり社号も「金毘羅宮」となりましたが神仏習合時代は続きましました。明治四年には讃岐の御本宮同様「崇徳天皇」を合祀し「白峰社」と改称するも同年には「琴平神社」と社名改称して祭神は「大物主神・崇徳天皇」として現在に至っております。

御神徳は航海安全は元より医療・家内安全・開運・福德円満の大神様です。

祭日は讃岐の本社と同じく毎月十日に月次祭。大祭は春は桜花満開の元に四月と秋は九月の十日にお仕え致します。

権補宜 松本 長人

平成の大修理工事状況報告

今秋、本殿遷座祭に向けて、諸工事は順調に取り進められております。

御社殿の工事は昨年引き続き、柿（こけら）葺き作業が行われ、四月中に御屋根全面を葺き終えました。



御屋根柿葺き

もちろんこの御屋根の中には、多くの方にご奉納いただいた、願い事・お名前前の記入された柿板が葺きこまれております。



奉納された柿板の葺き込み

御社殿の葺股（かえるまた）という、その名の通り、カエルの股の形状をした装飾部分の彫刻には、補筆と塗り直しが施されました。

拝殿正面向拝の龍の彫刻にも補筆の彩色が、菊の御紋には金箔が施され、鮮やかな色合いとなりました。



葺股彫刻



向拝の龍と菊の御紋

また銚（かざり）金具も、輝きを取戻しました。箱棟瓦、鬼瓦も取り付けられました。今回新たに焼き、今まで使われてきた瓦も使用しつつすべて綺麗に葺かれました。瓦の三巴紋にも鮮やかに金箔が押されました。



銚金具



鬼瓦と三巴紋

御社殿内部も、格天井の漆の塗り直し、彫刻の補筆などが行われております。

また、床の朱漆の塗り直しも終了し、高欄の修復等、順次完成に向けて進められていきます。



拝殿格天井



高欄の補修

透塀の塗り直しも、御社殿の工事との兼ね合いにより、段階的に進められており、今後は正面また中門も塗り替えされます。



透塀の塗り

斎館授与所工事に於いては、二月十五日、上棟祭が斎行され、高良大社責任役員・総代・平成の大修理奉賛会役員、御奉賛者など多くの御参列をいただきました。現在、屋根の鋼板も一面に葺かれ、漆喰塗などの外部、内部の工事が行われ、六月末の竣工に向けて、作業が進められています。

高良会館一階前のトイレの工事については、三月より着工、五月末に使用できるようになりました。引続いて、高良会館の改修工事を施工し、今年十月四日の、本殿遷座祭を迎えることとなります。



斎館授与所工事



高良会館一階前トイレ工事

境内では工事の為に手狭な状態、さらに工事車両の往来もあり、ご参拝の皆様には多大な迷惑をおかけしておりますが、今しばらくご容赦、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

高良大社 平成の大修理事業奉賛者芳名

(平成二十八年十二月十六日より二十九年五月十五日まで 敬称略・順不同)

一千万円以上
株式会社ワイドレジャー

五百万円以上

●田中藍株式会社

三百万円以上
●竹間 宗麿

百万円以上

●九州防水株式会社(二回目)

●絹笠 順一(創新会)

●鹿子嶋 洋明・俊平

五十万円以上

●東亜染工株式会社

●西日本鉄道株式会社

●九州電力株式会社

●株式会社九電工

●畑 照子・美枝子(二回目)

十万円以上

●吉川 正治(四・五回目)

●株式会社テクノス

●池上 博文

●水天宮

●丸山建設工業(株)

●矢野 彰

●御井地所

●向山 潔家一同

●須賀 興三郎

●ホテルニュープラザ久留米

●(株)みの寿

●福岡県南部移動商業(協)

●(株)平戸屋

●竹中 幸一

●ハイネスホテル久留米

●九州藍胎漆器(株)

●株式会社高嶋造園

●株式会社ノーブル

●御井校区老人クラブ連合会

●高宮 八千代

●マルハヤシ醤油

●松井 瑞穂

●山本 弘幸

●医療法人弘恵会

●高良大社奉賛青壮年会

●古賀 香代子

五万円以上

●(株)十八防災システム

●森田園材

●重枝 康生

●中村 安行

●中村 ツギエ

●中村 伊久子

●公益社団法人久留米法人会

●藤山上村日吉神社

●上野クリーニング

●的場 正行

●日吉プリント社

●(株)ロキテクノ九州工場

●野村證券株式会社久留米支店

●真田 信夫

●中ノ丁東自治会

●高良山の緑と史跡を守る会

●柴田 義弘

●橋本 哲男

●牟田 智恵子

●重枝 幹大

三万円以上

●高良山同志会

●松山 ひとみ

●鹿子嶋 節

●稲田 徹

●中村 勝

●(株)梅野工務店

●長門石 田鶴子

●江頭 貞光

●(株)JTB九州久留米支店

●株式会社ケンテック

●丸福株式会社

二万円以上

●高田 千鶴子

●(有)野口生花店

●(有)中村製畳店

●青木 洋子

●田坂 泉・仁志

●横山 慶子

●釘崎 かおる

●柴田 博文

一万円以上

●索納 義勝

●碓 健二

●株式会社大宝家具

●(株)プロインテック

●泰 桂介

●(有)太平不動産

●田平 恵子

●深山 伸義

●山下 泰史

●江浦 栄一郎

●豊福 政昭

●株式会社ステップ

●立石 満男・律子

●橋本 零時

●竹本 温

●中光 雅紀

●索納 国友

●索納 澄子

●索納 豊実

●索納 秀信

●索納 義光

●権藤 久子

●横山 節美

●秋野 誠

●天野 剛

●(有)トクグユニホーム

●末永 勝信

●大隈バラ園

●小郡じっへる犬猫病院

●岩橋 弘幸

●牛島設備工業(有)

●白木 一智

●増田 康治

●山中 富士夫

●脇田 キクエ

●松隈 智恵子

●陶山 新二

●森川 和成

●甲原 史子

●井口 丸子

●浦田 義和

●上田 経夫

●那珈乃

●谷口 広利

●馬場 勲

●天祖・諏訪神社

- 末松 邦男
- 末松 倫子
- (株)いよなが
- 家庭料理さつき
- (株)綿貫
- 奥山 壽
- 池田 知則
- 森 隆雄
- 石橋 英樹
- 柏尾造園
- (有)中村ツキ板
- 岡 直希
- 岡 洗希
- 岡 奈緒子
- 岡 希美
- 岡 優希
- 池田 伸敏
- 久留米鉄工団地協同組合
- 日東広告美術社
- 田中 美和
- 萩原 昌也
- 三好 莊一郎
- 二宮 昇
- 有限会社プリング
- 原 普一
- 釘崎 匡俊
- 宮本 則昭
- 山下 愛加
- 山下 康生
- 山内 耕一郎
- 相島 司
- 丹羽 哲郎
- 諸富 清敏
- 香月 結衣奈
- 株式会社さくら
- 秋吉 一明
- 秋吉 寿
- 下川 高寛
- 下川 正高

- 池田 典子
- 石橋 一枝
- へアーサロン瓦田
- 古賀 裕・未樹
- 友廣 繁雄
- 中島 敏江
- 黒木 朝美
- 都加原 恵
- 宮本 祐規子
- 尾形 裕子
- 一般社団法人まるの会
- 栗林 喜美子
- シロキコーポレーション(株)
- ヒロナリ焼付塗装
- 鷺森 豊満
- 藤田戦略研究会
- 鹿子島 宏征
- 梶村 洋一
- 田中 典行
- 田中 博則
- 田中 昌道
- 内藤 博好
- 仲 忠廣
- 一万円未満
- 仁志 正照
- 西村 博光
- 案納 義信
- 案納 久幸
- 青柳 純一
- 富安 健一郎
- 牧 喜久子
- 篠原 善明
- 檜橋 直人
- 心和鍼灸院
- 平尾 禧典
- 中満 一信・節子
- 並木 智宏
- 西木 正照

- 田中 正治
- 地町 照子
- 豊福 秀毅
- 田中 郁子
- 田中 邦子
- 長岡 保彦
- 宮原 信孝
- 草場 修一
- 華田 克則
- 中垣 俊子
- 石山 美穂子
- 案納 重行
- 案納 勢介
- 案納 富雄
- 案納 朝香
- 案納 カキ工
- 案納 克典
- 案納 重夫
- 案納 節子
- 案納 正男
- 案納 ヤス子
- 猪口 聡明
- 池田 泰典
- 松本 峰和
- 蒲地 榮子
- 吉田 昌樹
- 石田 邦利
- 伊藤 督一
- 井上 健太郎
- 井上 重則
- 井上 知義
- 梅野 定樹
- 遠藤 健史
- 太田 利明
- 小川 弘子
- 笠野 夏子
- 笠野 重蔵
- 梶村 義光
- 梶原 壽彦

- 草場 浩一
- 草場 誠一
- 黒岩 一
- 古賀 澄夫
- 古賀 年成
- 古賀 嘉子
- 鹿子島 伸一
- 鷹巣 邦生
- 田中 秀記
- 田中 サヨ子
- 田中 修平
- 田中 孝義
- 田中 浩孝
- 田中 昌洋
- 田中 泰隆
- 中司 一男
- 中園 輝男
- 中園 利之
- 長野 一哉
- 中野 徳彦
- 馬場 時夫
- 馬場 皆夫
- 原口 英樹
- 藤吉 俊三
- 前田 良子
- 松尾 知子
- 丸山 次男
- 満尾 恵美子
- 牟田 嘉明
- 吉田 俊治

本事業にあたりご篤志・御奉賛を賜り、厚く御礼を申し上げます。引続き、計画工事を進めて参ります。更めて皆様のご奉賛・御協力を重ねて御願ひ申し上げます。



高良山通信

高良山写真展募集概要

恒例となりました第六回高良山写真展を次の要領にて実施致しますので、奮ってご応募下さいますようお願い申し上げます。

●募集期間
平成二十九年九月十八日(月)～
敬老の日)まで

●表彰式典
平成二十九年十月十五日(日)
●展示期間
平成二十九年十月十五日(日)～
十一月二十六日(日)

第6回 高良山写真展



高良山の四季折々の風情を愛でるべく、秋の行事として「第6回高良山写真展」を企画することとなりました。写真展を通して高良山の自然の恵みと大神様の神恩に感謝申し上げながら更なる神徳の発揚と神慮をお慰め申し上げることを旨として企画しております。

第6回 高良山写真展 写真作品募集 実施募集要項

- 募集要項**
- ①高良大社を崇敬される方なら、性別・年齢・職業・国籍を問わず応募出来ます。
 - ②高良大社及びその関係者を被写体とする写真、公序良俗に反する、又は有様を損ねると判断された写真は不採用とします。
 - ③撮影期間は問いません。過去に写した写真で結構です。
 - ④応募人数は一人あたり3点までとします。但し、ほかのコンテストで入賞・入選した写真は、応募予定のない未発表の写真に限ります。
 - ⑤出品料は無料です。
 - ⑥著作権は高良大社に帰属し、高良大社が出版物・雑誌・公式ホームページ・ポスターなどで自由に使用出来るものとします。
 - ⑦デジタルカメラ・フィルムカメラ・カラー写真・モノクロ写真を問いませんが、加工合成は不可とします。
 - ⑧応募はプリントのみとして、展示の都合上A4判に限定します。A4判でないものは不採用とします。
 - ⑨他人の著作権や肖像権を侵害する行為があったときは、当主催者が察知して下さい。著作権の責任は一切負いかねます。
 - ⑩応募作品は返却致しません。
- 審査並びに入選発表**
主催者が委嘱する審査員とし、入選者には審査報告を直接郵送にて行います
- 作品の展示**
平成29年10月15日(日)～11月26日(日)
高良大社 (高良大社境内)
引き続き久留米ゆめタウンフロアにて (予定)
- 表彰ほか**
- 高良大社賞
 - 西日本新聞賞
 - 高良大社崇敬会会長賞
 - 久留米ゆめタウン賞
 - 福岡県知事賞
 - 高良大社賞
 - 福岡県議会議長賞
 - 審査委員長賞
 - 久留米市長賞
 - 久留米市議会議長賞
 - その他賞
- 表彰式典・賞品授与**
平成29年10月15日(日) 午後2時
- 実行委員会その他**
(主催者) 高良山写真展実行委員会
(後援) 高良大社・高良大社崇敬会・西日本新聞社

写真の裏に上下を合わせ、軸にしたテープなどはみ出さない様にシッカリと貼付けて下さい。(下記の応募票はコピーでも可)

第6回 高良山写真展応募用紙		第6回 高良山写真展応募用紙		第6回 高良山写真展応募用紙	
画題		画題		画題	
氏名	男・女 (歳)	氏名	男・女 (歳)	氏名	男・女 (歳)
住所 〒		住所 〒		住所 〒	
電話 () -		電話 () -		電話 () -	

応募詳細は別途チラシをご参照下さい。

崇敬会入会のご案内

自然豊かな高良山に鎮座する高良大社は、高良玉垂命・住吉大神・八幡大神の三柱を祀る、筑後国一の宮であり、その歴史は、古く御創建は西暦四〇〇年頃と伝えられていきます。また、高良大社には、国指定重要文化財など宝物、史跡が大切に護られて居ります。その祖先より受け継がれてきた歴史と郷土遺産を守り後世に伝えるための本会の趣旨にご賛同いただき、ご入会下さいますようご案内申し上げます。

- 年会費
個人会員
- 正会員 三、〇〇〇円以上
賛助会員 一〇、〇〇〇円以上
法人会員 一〇、〇〇〇円以上
- 正会員 一〇、〇〇〇円以上
賛助会員 三〇、〇〇〇円以上

- 毎朝の日供祭にて会員皆様のご安泰ご隆昌を祈願致します
- 特別参拝が出来ます
- 崇敬会大祭に御案内致します
- 会主催の行事に御案内致します
- 高良大社宝物館を拝観出来ます

お問い合わせ先
高良大社崇敬会事務局
〇九四二一四三一四八九三

鎮守の杜

私は去年の四月から奉職し、一年ほどが経ちました。この一年の中で、よく参拝の方から「工事中なんだね。残念だなあ」といった言葉を掛けられました。私がお勤めを始めた時にはすでに御本殿に覆いがあつたので、参拝の方と同じく「さんねん。」と思ったことを思い出しますし、今でもそう思っています。建屋の中は見えづらいますが、少しづつ工事が進んでいるのが見てとれると、そのたびにもう少しできれいになった御本殿がみられるんだとワクワクしています。十月四日の遷座祭までまだ時間がありますが、その時を楽しみにこれからもお仕事を頑張りたいと思います。(鷹)

職員異動

〔退職〕
巫女 松井 瑞穂
平成二十九年三月三十一日付

「たまたれ」 通巻三十七号
平成二十九年六月一日発行
発行者／高良大社社務所
福岡県久留米市御井町一番地
電話〇九四二一四三一四八九三
FAX〇九四二一四三一四九三六